



広
報

あいあい

第77号

令和8年3月25日

発行：西原地域コミュニティ協議会

TEL/FAX：028-635-7139

西原地域コミュニティセンター内

地域一体で開催



文化祭

おおにぎわい



* 主な内容 *

表紙 地域PTA文化祭
2P どんど焼
3P 西原つ子を支える
ボランティア



PTAの方たちは、それぞれの技術や経験を生かして文化祭の企画や運営にその力を発揮した。地域と学校とPTAが協力しあうことで文化祭はより魅力のある行事になっている。

校庭の模擬店には馴染みの味に長い列ができた。コミセンには、コミセンサークルと地域の方々の力作が展示され、訪れる人の目を楽しませた。

PTAの方たちは、それぞれの技術や経験を生かして文化祭の企画や運営にその力を発揮した。地域と学校とPTAが協力しあうことで文化祭はより魅力のある行事になっている。

校庭の模擬店には馴染みの味に長い列ができた。コミセンには、コミセンサークルと地域の方々の力作が展示され、訪れる人の目を楽しませた。

PTAの方たちは、それぞれの技術や経験を生かして文化祭の企画や運営にその力を発揮した。地域と学校とPTAが協力しあうことで文化祭はより魅力のある行事になっている。

★アイディア満載

第52回地域PTA文化祭

令和7年11月29日、西原小学校にて地域PTA文化祭が開催され多くの地域住民、児童、保護者で賑わった。

体育館ではオープニングセレモニーを皮切りに全てのパフォーマンスがステージで披露された。館内には縁日や横丁などのブースが並び、以前はランチルームで行われたバザー会場も設けられた。来場者は歌と踊りを一緒に楽しみ、館内は終日賑わいを見せた。

校庭の模擬店には馴染みの味に長い列ができた。コミセンには、コミセンサークルと地域の方々の力作が展示され、訪れる人の目を楽しませた。

PTAの方たちは、それぞれの技術や経験を生かして文化祭の企画や運営にその力を発揮した。地域と学校とPTAが協力しあうことで文化祭はより魅力のある行事になっている。

★第37回どんどやき

無事新しい年を迎え、家々のお飾りが外され、西原小学校校庭に集められ、1月11日にどんど焼きが開催された。今では市内の学校での開催は数少なくなったと言われている。

今年も社会福祉協議会の主催で歳末助け合い配分事業として行われたため、豚汁、焼きそばなどが無料で参加者に配られた。

お焚き上げのプラスチック分別はYCCが担当。食物は前日から子供会育成会、福祉協力員、子連役員などが準備した。

参加者も増え、一層雰囲気盛り上がった午後1時、消防車が待機する中、神職が祝詞を上げお祓いの後、点火された。

多くの家族連れが燃え上がる炎に今年一年の健康を祈り、豚汁や甘酒で身も心も温まった。



★合同研修行われる

3月6日、連合自治会、コミュニティ協議会、社会福祉協議会、共催の合同研修が行われ、自治会長、福祉協力員など26名が参加した。

さいたま市の造幣局では硬貨や勲章の製造過程を見学した。

その後、大宮鉄道博物館を見学、巨大な施設の中で様々な列車を間近に見学し、日本の鉄道の歴史に感嘆した。

また、昼食は、食堂車を模したレストランで、おいしいビーフシチューやハンバーグを堪能した。



ようこそ先輩 (美容師さん)



西原の日 (昔遊び)



平成20年当時、全国的に地域による学校支援活動推進の動きがあり、市も独自に全小中学校に地域協議会の設置を目指す中、本校は一早く設置を決めた。その背景には、既に複数の活動実績があり、何よりも地域に根付く「西原大家族」のゆるぎない気質があったといえる。

学校教育支援活動の仲介役となっているのが「西原小学校サポーター会議」(魅力ある学校づくり地域協議会/会長 中村光良氏)だ。

感謝の会



1月15日、交通指導員さんと学校支援ボランティアへの「感謝の会」が西原小学校体育館で行われた。8人のボランティアが出席し、児童から感謝の手紙と共にメッセージ入りカイロがプレゼントされた。今年度の登録ボランティアは100人ほど。環境整備、安全支援、学習支援としては昔遊び、ミシン、書道、キャリア教育など、活動も多様で、学校教育の充実に繋がっているという。



書道



読み聞かせ



パトロールボランティア (登下校の見守り)

現在、サポーター会議の委員は22名。学校、PTA、地域関連団体長、放課後子ども支援関連、ボランティア代表などで構成され、子どもたちや学校教育の現状や課題を知り、学校が要望する支援に地域がどのように応えるか意見交換を行う。

ボランティアの募集、学校との連絡調整などを担う地域コーディネーターの尽力も大きい。「支援依頼を快く引き受けてくださる方が多くありがたい」と話す。「子どもの元気な挨拶が一番のごほうび。」というボランティアの言葉も印象的だ。

古を訪ねて

福田浩二さん(89歳)

西原川向



福田浩二さん(89歳)は、市会議員を6期務め、長きにわたり地域の発展に尽力してきた。穏やかな人柄で多くの人に信頼され、今も元気に地域活動を見守っている。毎日晩酌は日本酒を1合、そして1日5千歩の散歩を欠かさない。さらに詩吟や卓球を楽しむなど多趣味で年齢を感じさせない活動的な毎日を過ごす。

地域活動では社会福祉協議会理事長としてデイサービスの立ち上げに尽力し、高齢者が安心して暮らせる環境作りに力を注いだ。また、生涯学習の場として西原コミュニティセンターの整備にも関わり地域の人が集い学びあう拠点づくりを進めた。さらに宇都宮工業高校跡地に一条中学校設置を提案するなど地域の未来を見据えた取り組みにも関わってきた。

現在は娘さんがその思いを受け継ぎ地域のために活動している。福田さんは「ここまで続けてこられたのも地域の皆さんのおかげ」と感謝の思いを語る。

◆蓬萊町自治会で「新年初顔合わせ」

彫刻屋台で知られる蓬萊町自治会。毎年、天満宮児童公園（菅原神社）で「新年初顔合わせ会」を行っている。集合は元旦10時、招待された西原お囃子会の五段囃子の軽やかな音色で幕開け、あいさつの後、お屠蘇で新年を祝う。焚火の上には熱々の豚汁の鍋、子どもたちにはお菓子やみかんも配られた。抽選会やゲームを楽しみ、大人も程よく顔を赤らめて、公園のあちこちに談笑の花が咲いた。

今年の参加者は町内外より併せて40名ほど。「生存確認みたいなものです」と自治会長の山本格さんは笑って話す。28軒ほどの自治会というが、住民の温かさで絆の強さが窺える。



技術の向上や無病息災を祈りつつ毎年演奏しているというお囃子会の齋藤斌さんは、「演奏後にいただく豚汁は冷えた身体に何よりのご馳走」と大感激。
「梅も膨らむ蓬萊のまち」と詠んだそう…。



◆花房集会所でひなまつり

雛人形を飾って女兒の健やかな成長を願う日本の古くからの伝統行事。住宅事情や少子化で段飾りを出す家は年々減るばかりだ。しかし、一方で各地の伝承館や観光地での段飾りが話題になっている。

「集会所で雛人形を飾ったらどうか」自治会長、菊地成人さんの発案で、早速回覧、雛人形の提供を募った。集まったのは立派な4組の七段飾り、2本の吊るし雛や置き雛。置きさされるかと心配しつつ、古の資料を片手に四苦八苦しながら数日掛けて飾り付けた。3月1日の祭り当日は、育成会にも呼びかけ、子どもたちには、ジュースと雛あられ、甘酒が振舞われた。初めての試みだったが大勢の人が見学を訪れ華やかな人形を愛でた。今後も伝統行事の良さを伝える意義深い行事となることを祈った。



新川さくら祭り

日時／3月29日（日）10時から

場所／新川畔台陽寺駐車場

*ぼんぼり点灯は3月29日から4月12日を予定
詳細は回覧をご覧ください。



●趣味ゆうゆう

草月流（師範）阿久津典子さん

〈西原一丁目〉

第46回宇都宮市民芸術祭
2023年5月



第47回宇都宮市民芸術祭
2024年5月



第53回とちぎ蘭展
2025年1月

〈あとがき〉 お店の端末もすっかり板につき Chat Gpt（チャットGPT）とも仲良しに。季節の風に背を押され時代の流れにも軽やかに乗れています。（〇）